

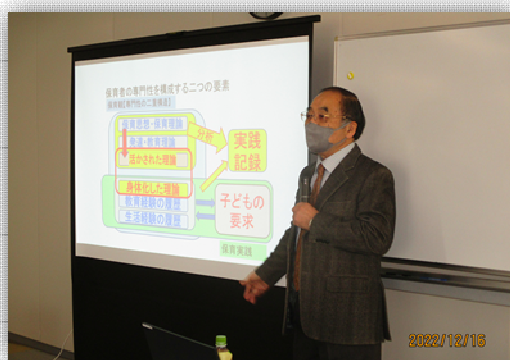
テーマ 「保育記録は対話する保育の必須アイテム」

R5. 1. 19 和光市 保育センター発行

昨年の12月16日に第4回加藤繁美保育ゼミが開催されました。今回の保育ゼミでは、「保育記録」を書いて分析することの意味や実践記録を記入する際のポイントについて学びました。

今の時代に私たちがやるべきこと、大切にしたいこととお話しいただき、改めて「保育すること」の意味、対話することの意義を振り返ることができました。

保育していくうえで『大切にしたいこと』『私たちがやるべきこと』を研修の中でお話をしていただきました。特に印象に残った内容をご紹介します。



子どもが自分らしく生きる権利を保障するために、子どもの声にどこまで応えているか、常に意識することが大切！

“当たり前”を疑ってみることも大切。保育の専門家である保育士は、自らを高め、保育の質を維持していくことが大切。同じ職場内で、子どもとの関わりを常に振り返ることで“当たり前”のレベルを上げていくことが大切。

子どもとの関わりで、担任間や保育園内でズレが生じた時に、その関わりについて表面だけを捉えてしまうと平行線で意見が対立したままになる。しかし、どんな理屈（理論）があっても関わったかを実践事例をもとに語り合うこと、保育士同士が分かりあうことが大切で、切磋琢磨して努力していくことが質の高い保育へと繋がり、自分たちを高めていくことになる。

自分の関わりが子どものどんな成長の援助に繋がっているか？知識としての理論だけではなく、その時の状況に応じた関わり（直観的応答力）で、どのように関わったか？を常に振り返ることが大切。



『大切なこと』を保育の実践に活かしていくために、『実践記録』を書いてみよう！！

- ★自分の保育の記録を書いて保育実践を振り返り、分析する力をつけていこう。
- ★「記録を書くこと」が大切なのではなく、子どもの声に正當に耳を傾けるために、記録を書き続けていこう。
- ★保育者の対応についてと、子どもの発達や育ちについての両面から分析をしよう。
- ★分析したことを意味づけしていくと、保育がより良くなっていく。

研修で学んだことをどのように実践につなげていますか？

受講者の
アンケートより

前回の研修を受けて3歳児の世界観のおもしろさを再確認！！イマジネーションの世界のおかしさをいっぱい知りたくて今まで以上にじっくりと観察するようになりました。そうすることで、より子どもを理解する幅が広がったように思えます。

良い・悪い⇒この大人の価値観を…なるべくやめる（脱却しようという努力をしました）
遊びの表面を見るのではなく、遊びの本質を考えるよう意識して保育してます。

振り返りノート（実践記録）を複数の先生にまわして、感想を記入してもらうようになった。今回のゼミに参加し、保育の関わり（実践）の根拠や子どもの姿の見立てを説明できるよう、ノートの感想部分を意識するよう気をつけている。

大人の考え、思いが押しつけになっていないか、行動を起こす前に、考えることが増えました。子どもの今の思いを大切に考えて関わっています。

今回の保育ゼミの感想



園児に誘われごっこあそびの仲間に入れてもらうことがあり、その時は虚構世界に入りこめているかな…とってはいますが、改めてゼミの場で大人同士+「分析」となると難しいなと思いました。周りの方の発表を聞きその観察力、まさに分析するということにとっても圧倒されました。素晴らしかったです。勉強になる貴重な時間をありがとうございました。

和光駅前保育園 伊藤先生

今回のゼミでも学びが多く、分析力を高めるためには、集団でやることで色々な視点での評価が生まれる、出てきた発見が分析のおもしろさにもつながる。←これが園全体で出来ると保育の質の向上にすごいつながると感じました。また、大切な子ども達の声を聴きとる為に日々メモする習慣が大切だということ…これは意識してメモを取り続けていきたいと感じました。

みなみ保育園 榎本先生

今回の保育ゼミでは、実践事例をもとにグループで意見を出し合いました。次回はいよいよ最終回となり、自分たちの実践記録をもとにグループディスカッションを行っていきます。

実践記録を書いて保育を振り返ることで、より良い保育実践に繋がるよう、受講生のみなさんと学んでいきたいと思えます。

次回は 2月3日（金）13:30～15:00 和光市役所602会議室でお待ちしています！！

（研修担当）保育センター 保育士 寺尾道代